

**平成 28 年度 北海道立生涯学習推進センター研修事業
生涯学習推進基本講座（道央会場） 事業報告**

I 事業の概要

研修テーマ 人口減少問題に対応した社会教育行政の在り方
～ 人口減少問題に対応した学習機会の提供 ～

- 1 趣 旨 人口減少問題に対応した生涯学習を推進するための体制整備として、人材の育成や地域との協働に関する実践事例等をもとに検討し、人づくりやまちづくりに資する学習機会の提供の在り方について考えを深める。
- 2 主 催 北海道立生涯学習推進センター
北海道社会教育主事会協議会（空知社会教育研究協議会）
- 3 期 日 平成 28 年 8 月 25 日（木）
- 4 会 場 北海道空知総合振興局 5階会議室・3階会議室
- 5 参加対象 市町村・市町村教育委員会職員、各種審議会委員（社会教育委員、生涯学習審議会委員等）、生涯学習・社会教育関連施設職員、青少年教育施設職員、社会教育関係団体職員等 30名
- 6 参加状況 29名（社会教育関係職員22名、社会教育関係職員以外7名）

7 日 程

< 8月25日（木） >

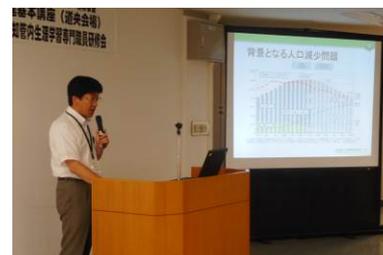
	10:00	10:05	10:15		11:40	11:45	13:10		16:30	16:40
受付	開会式	説明	基調講演	情報提供	昼食休憩	ワークショップ		閉会式	個別相談	

8 活動の概要

- (1) 説 明「事業評価のポイントや協働を構築するために必要な視点について」

【説明者】北海道立生涯学習推進センター社会教育主事 吉光寺 勝己

【内容】 将来の人口予測をもとに、人口減少社会を背景とした魅力的な地域づくりの必要性について説明した。



- (2) 基調講演 「地域とともに歩む」
～三笠高等学校地域連携部の取組～

【講師】北海道三笠高等学校 教諭 熊谷 綾真氏

【内容】 講師から三笠高校地域連携部について、地域と関わ



る活動がしたいという生徒で取組が始まり、地域の幼稚園や児童館、デイサービスセンター等との交流など、地域からの要望が増えてきていることや、こうした取組が、地域のことを考える人材の育成につながっているとの話があった。



(3) 情報提供

【情報提供者】 国立大雪青少年交流の家企画指導専門職 村 澤 泰 志 氏
北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル深川社会教育主事 一 関 真希夫 氏
北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル砂川社会教育主事 安 間 邦 雄 氏
空知教育局教育支援課社会教育指導班主査 池 田 直 也 氏
北海道立生涯学習推進センター主査 久 保 大 輔



(4) 研究協議

Aコース 「地域の担い手を育てる学びの提供」

【ファシリテーター】 北海道立生涯学習推進センター社会教育主事 吉光寺 勝 己

【内容】 地域住民が主体的に学んでいる姿や主体的に活動している姿を事例から抽出し、住民が主体的に地域づくりに関わるための視点を分析した。

地域で活躍する大人や学生ボランティアの姿から子どもが影響を受け、将来的に地域を担う住民が増えることなどの人材育成の視点や、学校教育と社会教育、ボランティアがコミュニティ・スクールで連携するなどの体制づくりの視点について、数多くの実施方策が提案された。



Bコース 「学びと活動の循環の形成」

【ファシリテーター】 北海道立生涯学習推進センター主査 久 保 大 輔

【内容】 「地域を好きになる学び」を整理した上で、人口減少問題に対応した「地域を好きになる学び」の次のステップとして、学びを活動につなげるための方策を、グループワークを通して考えた。グループからは、50歳～60歳代を対象に町内会を核とした活動や、60歳代の女性をターゲットとした観光ボランティアや学校支援の取組のアイデアが提案された。



(4) 個別相談（希望制）

【対応】北海道立生涯学習推進センター主 査 久 保 大 輔
" 社会教育主 導 吉 光 寺 勝 己



【内容】

滝川市	地域の教育力向上と事業評価について
夕張市	小規模市町村のセンター機能について 各種青年団体の活動事例について
新十津川町	社会教育中期計画の策定について 体験活動の進め方について リーダーの育成・団体との関わり方について

II 事業の満足度

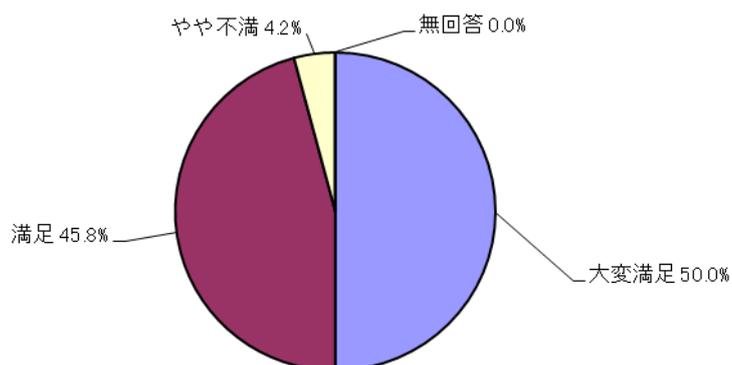
1 本講座参加者数 29名

（内訳） 社会教育関係職員の参加者数 22名（75.9%）
社会教育関係職員以外の参加者数 7名（24.1%）

2 アンケート対象者数 29名 回答者数 24名（回収率 82.8%）

3 講座全体をとおして

総合満足度	大変満足・満足 95.8%
-------	------------------

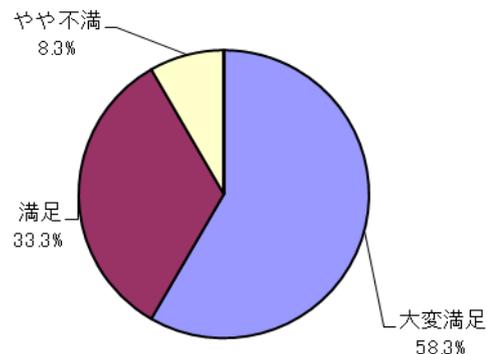


【参加者の主な声】

- 1日に凝縮され、内容の濃い研修となった。
- 今日的な課題を把握することができた。
- 身近な町の職員の様々な考え方に触れることができた。
- 講演の内容も良かったし、グループワークもとても勉強になった。

4 研修プログラムの内容について

(1) 基調講演「地域とともに歩む」～三笠高等学校地域連携部の取組～

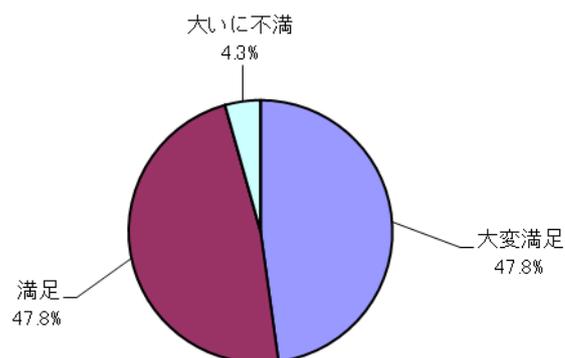


【参加者の主な声】

- 高校生の気持ちを地域社会にうまく接続させることで、地域連携を越えた学びの機会の提供に繋がった好事例だと感じた。
- 学校の意見や取組の様子を知ることができ、社会教育の視点においても大変参考になった。
- 市立高校として地域へ様々な方面からアプローチするところに、重要なヒントを感じた。
- 自主的に動き出す高校生と、それを仕掛ける先生の熱心な活動に共感を覚えた。
- 社会教育行政が具体的に関わる場面の話も聞きたかった。

(2) ワークショップ

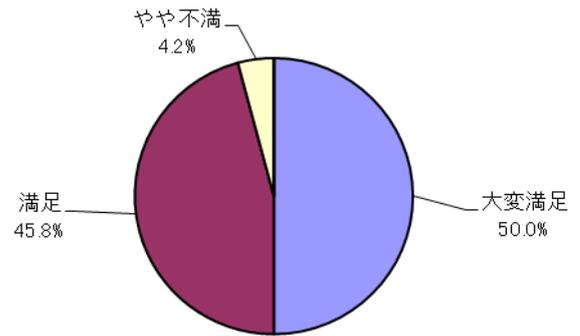
- A 「地域の担い手を育てる学びの提供」
- B 「学びと活動の循環の形成」



【参加者の主な声】

- 地域住民に対するアプローチの方法について、ヒントを得ることができた。
- 事業の企画段階と実施後の地域住民の変容について、体系的に学ぶことができた。
- それぞれの地域や立場による考察の違いを知ることができた。
- プログラムが細かく分かれていたことにより、一つ一つの理解が深まった。
- 話し合いの時間がやや短く、深く掘り下げることができなかった。

5 講座の運営について



【参加者の主な声】

- 講演の内容が研究協議とテーマに繋がっており、学びが深まった。
- 参加者と同じ目線に立って考える姿勢に満足した。

6 その他、本講座をとおして気づいた点

【参加者の主な声】

- 研究テーマや地域の実情に沿った研修内容となっていたため、非常に勉強になった。
- より多くの社会教育委員に受講してほしいと思う内容だった。
- 貴重な学習の機会となった。
- 空知管内以外からの参加者が少なかったのが残念だった。

7 今後の要望等

【参加者の主な声】

- ・「話し方講座」を開催してほしい。